共同研究シリーズ

南山大学地域研究センター共同研究「近代科学と芸術創造」研究会では 2012 年から 3 年間の研究成果として『近代科学と芸術創造—19～20 世紀のヨーロッパにおける科学と文学の関係—』を刊行いたしました。

共同研究シリーズ　7

『近代科学と芸術創造—19～20 世紀のヨーロッパにおける科学と文学の関係—』

2015 年 3 月 31 日　初版第 1 刷発行
編著：真野　倫平（南山大学外国語学部）

発行者：楠本耕之
発行所：行路社
装丁：仁井谷伴子
組版：鼓動社
印刷・製本：モリモト印刷株式会社
ISBN 978-4-87534-448-3 C3098
［本体］ 4,000 円＋税

序		真野倫平
第 1 部　犯罪と科学		
第 1 章	フランス文学と犯罪学（1） ——19 世紀前半の文学と「囚人に関する知」	梅澤礼
第 2 章	フランス文学と犯罪学（2） ——19 世紀前半の文学と「監獄学」	梅澤礼
第 3 章	フランス文学と犯罪学（3） ——19-20 世紀の文学と「共感の犯罪学」	梅澤礼
第 4 章	動物と犯罪 ——アレクサンドル・ラカサーニュ（1843-1924）の「動物犯罪学」とその挫折	橋本一径
第 5 章	ゾラ『真実』における＜性的倒錯者＞ ——犯罪人類学的考察をめぐって	林田愛
第 2 部　医学・生理学との交錯		
第 6 章	19 世紀において医学史をどう書くか	松村博史
第 7 章	バルザック『田舎医者』における医学と医者像	松村博史
第 8 章	所有物としての胎児——「身体的完全性」というフィクション	橋本一径

第 9 章	生産力の円環——有機体論としてのドイツ栄養生理学	高岡佑介
第 10 章	ドレスデン衛生博覧会（1911/1930） ——二度の国際博覧会参加にみる近代日独医学交流史	石原あえか
第 3 部　心の科学を求めて		
第11章	グラン＝ギニョル劇と精神医学の諸問題 ——アンドレ・ド・ロルドの作品における精神病者像	真野倫平
第 12 章	グラン＝ギニョル劇における心霊的主題について ——エラン、デストク『彼方へ』を中心に	真野倫平
第 13 章	世紀転換期ドイツ語圏における魂の行方 ——G・ベンと S・フロイトにおける心霊学	鍛冶哲郎
第 14 章	犯行現場としての心 ——G・W・パプスト『心の不思議』をめぐって	竹峰義和
第 4 部　＜知＞の枠組みをめぐって		
第 15 章	バルザックにおける「全集」と「知」	鎌田隆行
第 16 章	≪Monographie du rentier≫ ——バルザックによる凡庸社会の分析	鎌田隆行
第 17 章	重力と運動 ——『ブヴァールとペキュシェ』におけるフィクションと知の言説	山崎敦
第 18 章	イメージの生理学——テーヌとフロベール、ゾラ、モーパッサン	橋本知子
第 5 部　科学技術と未来予想		
第 19 章	空中旅行 ——科学的実験と知識の開示様式のはざまで（1850-1900 年）	クリストフ・ガラベ 真野倫平　訳
第 20 章	「書くこと」と「縫うこと」の間で ——19 世紀フランスにおけるミシン産業の発達と文学	橋本一径
第 21 章	＜驚異の旅＞のネガとしての『二十世紀のパリ』 ——否認される未来予想	石橋正孝
第 22 章	ジュリアン・バーンズからエルネスト・ペタンへ ——気球の文学性をめぐって	石橋正孝
第 23 章	ゾラと科学技術——『労働』（1901）を中心に	中村翠

●ご購入は書店または下記までお問い合わせください。

行路社　大津市比叡平 3-36-21　Tel：(077)529-0149　/　Fax:(077)529-2885